



ヒロシマ・ナガサキ写真展

2012 年 8 月 1 日(水) ~ 8 月 31 日(金)

〜〜〜 広島市長・長崎市長 メッセージ 〜〜〜

1945 年 8 月、広島・長崎に投下された原子爆弾は、一瞬にして街を破壊し尽くし、2 都市で 20 万人以上もの生命を奪いました。かろうじて生き残った人々も、核兵器の特徴である、放射能障害などに苦しんできました。放射能の影響については現在も完全には解明されておらず、被爆者は不安のうちに生活をしています。

広島・長崎は、悲惨な被爆体験から立ち上がり、核兵器のない世界をめざそうとする被爆者とともに歩んできました。多くの人々の努力によって、核兵器の三度目の使用は未然に防がれてきましたが、悲しいことに、核兵器を全廃するという我々の願いは、今なおかなえられていません。

皆様には、このポスター（写真）展を通して、核兵器がもたらした被害の実相を直視し、核兵器が人類の生存そのものを脅かす「絶対悪」だということを理解していただきたいと思います。そして、この地球上から核兵器がなくなるよう、皆様が行動を起こしてくださいことを期待しています。

我々一人ひとりが踏み出す一歩は、小さいかもしれませんが、しかし、それが、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う、国際的な世論になっていくものと確信しています。

2020 ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行動）の展開

平和市長会議は、2020 年までの核兵器廃絶をめざす具体的な行動指針「2020 ビジョン」を策定し、世界の都市・市民・NGO 等と連携しながら、核兵器廃絶に向けた様々な活動を展開しています。特に 2010 年からは、核兵器の製造・保有・使用等を全面的に禁止する「核兵器禁止条約」の早期実現をめざし、条約締結に向けた世界的な動きを創り出すための取り組みを進めています。

- 1) 2013 年に広島市で平和市長会議総会を開催し、併せて核軍縮会議の開催をめざします。
- 2) 5,000 を超える加盟都市に、2012 年の一斉原爆ポスター（写真）展開催を呼びかけます。
- 3) 核兵器禁止条約の交渉開始を求める市民署名活動の世界的な展開を図ります。
- 4) 世界の都市・政府・NGO・平和活動家等との連携を強化します。



核廃絶を訴える被爆者たちの平和行進
(ニューヨーク、2010 年 5 月)

**第1部・第2部・第3部にわたる、チェルノブイリの「広河隆一写真展」
見学された方々から、たくさんの意見をいただきました。ありがとうございました。**



・「チェルノブイリの子どもたちの絵画展」を見て、子どもたちの絵で、視覚的にチェルノブイリの現状について、知ることができました。楽しいという表現は合わないが、最後までしっかり見させていただきました。ただ、チェルノブイリ原発事故の原因や背景などがあれば、もっとよかったと思う。(市内. 男)

・子どもたちの絵と詩を読んで、今も苦しんでいること、そして生きたいと願っていることを知った。福島の子供たちも、同じ道をたどっているのではないかと思うと、もっと子どもたちの支援を積極的にしなくてはと思う。(市内. 女)

・ちょうど関心のある話題の絵画展だったので、見学できて良かったです。遠いチェルノブイリのことだけでなく、いまの日本の、私たち一人ひとりがしっかりと考える問題だと思います。(市内. 女)

・チェルノブイリの子供たちの絵から、いっそう深く原発の危険性を思い知りました。破壊された村と、子供たちの透き通った洞察力が印象的です。(市外. 男)

・「チェルノブイリと核の大地」の展示、まことにタイムリーな内容で、とても心に響きました。これが、福島と重ならないことを願いました。(市内. 男)

・改めて原発の恐ろしさを認識した。これから、日本でも起こりうる現実かもしれないと思うと、自分でもしっかり判断しなければならない。このことを忘れてはならないし、福島のこれからの、責任を持って寄り添わなければならないと思う。(市内. 女)

・人間が管理できる範囲を超えたエネルギーを、安易に使うべきではなかった。チェルノブイリでは、子どもたちに大きな犠牲が出ていることが、特に悲しい。科学の進歩の中心に、人間(人権)をおいて考えなくてはいけないと思う。便利さとか安さとかの引き換えに、「生きる」ことを奪われてしまっただけは何にもならない。人は、工夫や協力で、生活を何とかしていけると思う。いや、私たちが何とかしなくてはいけないと思った。市民にもっとPRして、多くの人に見てほしいです。(市内. 女)

・私も一児の父となり、今までとは違う視点で見せていただきました。原発については賛否両論ありますが、個人的には子どもたちの痛々しい姿を見て、将来的な結論は1つしかないことを確信しました。(県外. 男)

・現発事故後26年も経ち、現地の河・川・沼などの残留放射線量について、資料があれば、日本の原発の将来の参考になると思う。子どもの特集写真に、ロシア(ソ連)の「サダ子」を再発見し、福島の10年後・20年後に心を痛める。(市内. 男)